

農協と組合員をつなぐ広報誌

なつしゅんぱ



2月9日(金)豊原保育園にて「親子参観日」が開催されました。子供も大人も寒さを忘れ、氷の上を縦横無尽に走り回り、玉入れ、そりリレーと各種目、白熱した展開となりました。


JA中春別

3月号

2018 Vol. 482

草地への追播および維持管理

良質粗飼料生産利用対策委員会(山崎浩二委員長)、良質生乳生産推進委員会(藤倉紀夫委員長)主催、豊原・美原・中春別各酪農振興会協賛による合同講習会が2月14日(水)団地センタートレーニング室にて、参加者70人のもと行われました。

雪印種苗(株)営業本部トータルサポート室主査 佐藤尚親氏による講演



良質粗飼料生産利用対策委員会では草地の植生改善に向けて、パンフレットの作成や現地植生講習会の開催、草地植生調査を行ない少しでも畑に目を向けてもらうよう活動を進めており、今回の講習会では「草地への追播および維持管理について」と題し、雪印種苗株式会社営業本部トータルサポート室主査・佐藤尚親氏を講師に招き講演いただきました。



て、堆肥に除草剤(ラウンドアップなど)を直接散布して雑草駆除を

することがおススメです。追播についてはしっかりと溝が切れているか、種が落ちているか確認を行っているか、走行スピードを6〜7km/hrに保つことによつて畑が綺麗に仕上がります。冬期播種のフロストシーディング(イネ科限定)については、平均気温が6℃以下になる11月上旬旬が目安となります。昨年は12月下旬に季節外れの大雨が降り、その後、凍結したことから、アイスシートに覆

雑草畑となつてしまっています。草地更新後は、草地への適

ピードで衰退していき、シバムギの収量はチモシーと比較し2割減取となり、リードカナリীগラスは乾物摂取量低下により乳量が減少し、経済的なダメージが非常に大きくなつております。植生改善に係る費用は3年程度で回収が可能であることから、草地の状況に応じた対応が重要となります。草地更新については、完全更新(プラウ)

の、簡易更新(ロータリー)は初期生育が良くコストが安いなどのメリットがあります。除草剤散布のタイミングについては、イネ科雑草の草丈40cm程度が目安となり、また、雑草を畑に持ち込まない対策とし

て、平均気温が6℃以下になる11月上旬旬が目安となります。昨年は12月下旬に季節外れの大雨が降り、その後、凍結したことから、アイスシートに覆

われている草地が多く、被害が大きい畑については、春先に追播などで草地の維持管理に努めましょう。当農協の草地更新率は5%前後で推移しており、草地更新を行なつても維持管理が疎かになるとすぐに



正な肥料の投入(基肥・追肥)や糞尿の適正還元、土壌改良材の散布により地力を維持させ、雑草が目立ち始めたなら除草剤による駆除、裸地などには追播などをおこない良好な草地を保ちましょう。

仔牛の管理く出生から哺育期く

NOSAー道東根室南部事業センター診療1課
山田龍太郎氏による講演

良質生乳生産推進委員会
では、本来なら乳質改善の
テーマで講習を行うべきと

から哺育期く」と題
して講演をしていた
いただきました。



ころではありますが、その
土台とも言える分娩・哺
育・育成から良い搾乳牛へ
と繋げていけるようなテー
マにし、講師にNOSAー
道東根室南部事業センター
診療1課・山田龍太郎氏を
招き、「仔牛の管理く出生

「お産は 待つのが基本」

分娩兆候が
あつてからの時
間の経過と介助
のタイミング
は、(1)1次破水後
2時間たつても
2次破水がされ
ない(2)2次破水
後陣痛が強くな
らず、2時間たつ
ても子牛が産ま



れない(3)母牛の陰部
から子牛の飛節が出
きつた(逆子)など

多種多様なケースがありま
す。産道の開き具合や子牛
の状態の確認、介助時は母
牛の陣痛に合わせて牽引し
無理に引っ張らないなど慌

てずに「お産は待つのが基
本」。農家の皆さんには積
極的に産道に手を入れて確
認・経験して欲しいとの事
でした。



初乳の給与は初回2時間
以内が好ましいが6時間
でも良い。12時間以内に総量
として6L程度が推奨量。
初乳の細菌数は20分毎に倍
増するので冷蔵2℃位だと
1週間以内に使用、業務用

などの冷凍ではマイナス
20℃位で1年間使用可能、
家庭用冷凍庫では3ヵ月程
使用可能です。解凍時は電
子レンジなどは使わず48℃
程度の温水で行うのが好ま
しい。

子牛の親
牛との同居
は禁物、ア
ンモニアや
糞尿により
肺炎のリス
クが高ま
る。群飼
をする場合
は1区画9
頭以下では
風邪などの
発生率が低
いなど日頃
より乾乳舎・
分娩房や
ハツチなど
を清潔に保
ち産まれ落
ちたその時
から、より
良い子牛の
飼養管理を
徹底しても
らいたい。

根室地区JA青年部幹部研修に参加して

地域の未来を担う、若い生産者の活躍に向けて

毎年開催されております根室地区JA青年部幹部研修が、1月29日より31日の3日間において開催され、当青年部から柿本竜矢理事、中山泰輔部員が参加し、1日目はホクレン・中央会との意見交換会（札幌）、2日目は農水省との意見交換会（東京）、3日目は議員会館への表敬訪問を行いました。

1日目 ホクレン、中央会との意見交換会

まず始めにホクレンビルを訪問、ホクレン酪農部の方々と意見交換会を行いました。ホクレンの役割や活動内容について説明を受けたのち、意見交換会を行い、活動の一つの需要拡大運動は酪農家の搬出によって行われていることや、メディアへの情報発信など、取り組みについての再確認も行い、ホクレンについての理解向上に繋がりました。続いて北農ビルを訪問し、中央会農政部との意見交換会を行いました。農水



ホクレン酪農部との意見交換

省への意見交換や国会への要請の意義や方法など、中央会の活動内容について説明を受けたのち、意見交換会を行いました。その後、場所を移し、中央会の職員の方々と懇親会を開催しま



農水省前にて

した。様々な話をする事ができ、賑やかな懇親会となりました。

2日目 農林水産省との意見交換会

東京へ移動し、農林水産省を訪問しました。生産局畜産企画課の方々と意見交換を行いました。畜産クラスター事業や酪農ヘルパー関係、担い手や労働力確保情勢など、限られた時間の中でではありますが、日頃実感する営農に関する様々な意見や思いを伝える事が



農水省との意見交換

出来ました。その後、場所を移し、農水省の職員の方々と親睦会を開催しました。農水省の職員の中には、以前根室管内へ酪農体験の参加経験がある方もおり、現場の仕事の話からプライベートな話までと賑やかな親睦会となりました。

3日目 伊東良孝衆議院議員への表敬訪問

衆議院第一議員会館へ移動し、衆議院議員・伊東良孝氏へ表敬訪問を行いました。忙しい中お時間をいただき、昨今の酪農情勢や現



伊東先生へ表敬訪問

場の悩みなどについて意見交換させていただきました。

2泊3日と短い中での研修会でしたが、農協関連組織、農水省各担当者からの貴重な意見を聞くことができました。研修を通じて得た意見や知識を各単組で何らかの形で活かし、今後の酪農経営や青年部活動へ取り組みたいと思います。また、夜には管内盟友との懇親会も開催され、日頃の仕事の話から青年部活動についてなど熱く語り合う事ができ、管内盟友との親睦も図ることができた研修会となりました。（青年部理事・柿本竜矢、中山泰輔）

JA青年部
リーダー
養成研修会

青年部活動の 活性化に向けて

2月7日(水)～9日(金)に北海道農業協同組合学校(江別)でJA青年部リーダー養成研修会が開催され、当青年部からは、伊藤孝彦部員が参加されました。

JA青年部組織活動活性化のための基本的知識と技能の習得や、リーダーシップを発揮するためのコミュニケーション力の向上を図ることを目的に研修会を開催しており、全道各地から集まった青年部員とともに、JAの歴史や青年部の役割、在り方などの講義、グループで議題に対し各自の考え方を話し合う共同研究など、普段、体験できないことを行うことができました。また、懇親会もあり、参加者とともに食事をとりながら、仕事の話やそれぞれの悩み、プライベートな話に華を咲かせ、情報交換にもなり交流



員とともに、JAの歴史や青年部の役割、在り方などの講義、グループで議題に対し各自の考え方を話し合う共同研究など、普段、体験できないことを行うことができました。また、懇親会もあり、参加者とともに食事をとりながら、仕事の話やそれぞれの悩み、プライベートな話に華を咲かせ、情報交換にもなり交流



員とともに、JAの歴史や青年部の役割、在り方などの講義、グループで議題に対し各自の考え方を話し合う共同研究など、普段、体験できないことを行うことができました。また、懇親会もあり、参加者とともに食事をとりながら、仕事の話やそれぞれの悩み、プライベートな話に華を咲かせ、情報交換にもなり交流

員とともに、JAの歴史や青年部の役割、在り方などの講義、グループで議題に対し各自の考え方を話し合う共同研究など、普段、体験できないことを行うことができました。また、懇親会もあり、参加者とともに食事をとりながら、仕事の話やそれぞれの悩み、プライベートな話に華を咲かせ、情報交換にもなり交流

を図られました。

今回の研修会を終えて、どの地域でも、部員不足や事業参加者の減少など、抱えている悩みは同じであることがわかりました。悩みを抱えながらも青年部活動の活性化に向けて、積極的な姿勢である役員の姿を踏まえて、自分も青年部活動に対し積極性を出していききたいと思いました。

全体を通して、今回の研修会に参加したことで、青年部活動に対する知識や意識の向上ができました。研修で得たことを活かし、今後の青年部活動に取り組みます。

(青年部・伊藤孝彦)



消費者と交流をもつ観光牧場、高精度な農業機械を視察

青年部会 視察研修会

青年部の中でも30歳以下の若手で構成される青年部会(柿本竜矢部会長)では、2月1日(木)札幌近郊での視察研修会を開催しました。



**千歳市内・箱根牧場
酪農体験、食の安全農業の魅力伝える**

今回2カ所での視察を行います。始めに、千歳市内の箱根牧場で視察を行いました。箱根牧場は観光牧場として有名であり、搾乳体験や学生を主に対象とした農

作業・酪農体験ができます。また、無農薬での農作物の生産も行っており、これらは牧場のレストランで使用されています。レストランでの昼食を挟み、牧場

の生産品を使用した料理を堪能しました。観光牧場として、消費者が訪れやすい環境があることで、生産者と消費者

**EM・エス・ケー農業機械(株)
自動操縦が可能な最新の農業機器**

次に、恵庭市内のEM・エス・ケー農業機械株式会社への視察を行いました。輸入トラクターを国内法規に合わせるための改装作業や、部品庫、作業機、注文を受けた部品などの発送作業や事務所内と、社内全体の視察をし、最新の農業機器なども見ることができました。その中

の生産品を使用した料理を堪能しました。観光牧場として、消費者が訪れやすい環境があることで、生産者と消費者

が関わりや交流を持つことができ、実際に見て体験することで、食の安全性や農業の魅力伝えることができます。視察を通じてわかりました。

を行い、仕事の話から趣味の話などと賑やかな親睦会となりました。今回の視察では部会員にとっても、とても良い刺激となりました。視察を通じて

て得たことを活かして、これからの営農、青年部活動に努めていきます。



中春別営農サポート協議会

協議会伊藤会長より挨拶をいただきました。議長には豊原地区の眞下雅人氏が指名され、議事に入りました。

議案第1号「平成29年度事業報告及び収支決算について」では、小湊副会長より事業報告がされ、「労働力補完のためインターネット求人を中心とした研修生



開会の挨拶を述べる南澤会長

中春別営農サポート協議会（南澤副会長）の第16回通常総会が2月8日(休)に団地センタートレーニング室にて開催されました。

労働力補完に取り組み、 会員の生活にゆとりを！



の募集や各地の学校訪問等を行い、研修生との交流や研修を行うことで人材の確保を図って参りました」と説明がありました。次に議案第2号「平成30年度事業計画（案）及び収支予算（案）」では、「会員の労働軽減と地域農業活性化を目的

指して事業を推進して参りたく、23年度より一定の成果を上げている道内外の学校訪問を継続して行い、各学校との情報交換・連携を強めながら会員及び地域との交流を深めることにより、研修生の長期滞在を推進していくと共に人材不足を解消すべく募集方法を変えるなど、会員への利便性の向上を図って参りたいと



議案の説明に真剣に耳を傾ける会員の皆さん

中、新役員が決定し、第16回通常総会が終了しました。

今後とも中春別営農サポート協議会は、会員の皆様のゆとりある生活を目指し、労働力補完に取り組みます。本年度も昨年同様、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

考えます」と高橋副会長より新年度事業計画の説明がありました。議案第3号「賦課金の賦課及び徴収方法について」、議案第4号「役員改選について」、議案第4号「役員改選について」、議案第4号「役員改選について」、議案第4号「役員改選について」が提出され全議案可決承認されました。第4号議案「役員改選について」では、役員選考委員会の久末敏幸委員長より役員選考の結果が報告され、拍手多数の中、



新役員の方々

平成30年度からの新役員構成は以下のとおりです

会長 小湊 均
副会長 高橋 学
副会長 川畑 秀晃
理事 久保 朋子
理事 小林 美子
理事 佐々木 貴子(新)
監事 坂本 正志
監事 広沼 力也(新)



豊原保育園
スケート教室

寒さに負けるな
楽しんで上達!



豊原保育園では、年中・年長園児を対象に別海町総合スポーツセンターより菅原先生を講師に招き、2月7日(水)スケート教室が開催されました。

今年、雪が少なく、季節外れの大雨と、暖かい日が続いたこともあり、スケートリンクができるか心配されていましたが、父兄による夜通しのリンク造りのおかげもあつて無事に開催することができました。

準備体操を終え、スケート靴を履いてスケート教室が始まりました。年長組は昨年の経験もあり、スイスイと滑る園児が多く、年中組は転びながらも楽しんで滑っておりました。基礎練習として、足踏みやジャンプ、転び方、スタートダッシュなどを指導していただき、限られた時間の中でしたが、楽しみながらも真剣に練習をしました。終盤では練習の成果もあり、園児全員がリンクを1週できると上達をしました。

最後には、講師の先生と「だるまさんが転んだ」を行いました。園児たちはスケート教室を通じて教わった、滑り方や止まるコツを駆使しながら遊んでおり、寒さも忘れて夢中で滑りました。終了後は、みんなで記念撮影をして、スケート教室が終わりました。寒い中、スケート教室に参加された皆様、お疲れさまでした。

今年、雪が少なく、季節外れの大雨と、暖かい日が続いたこともあり、スケートリンクができるか心配されていましたが、父兄による夜通しのリンク造りのおかげもあつて無事に開催することができました。

準備体操を終え、スケート靴を履いてスケート教室が始まりました。年長組は昨年の経験もあり、スイスイと滑る園児が多く、年中組は転びながらも楽しんで滑っておりました。基礎練習として、足踏みやジャンプ、転び方、スタートダッシュなどを指導していただき、限られた時間の中でしたが、楽しみながらも真剣に練習をしました。終盤では練習の成果もあり、園児全員がリンクを1週できると上達をしました。

最後には、講師の先生と「だるまさんが転んだ」を行いました。園児たちはスケート教室を通じて教わった、滑り方や止まるコツを駆使しながら遊んでおり、寒さも忘れて夢中で滑りました。終了後は、みんなで記念撮影をして、スケート教室が終わりました。寒い中、スケート教室に参加された皆様、お疲れさまでした。



豊原保育園
親子参観日

あべって、転んで 親子で楽しんだ氷上ゲーム

豊原保育園で2月9日(金)、親子参観日が行われました。



普段の保育園とは違い、父兄と一緒に過ごせる喜びのせいか、園児たちの気持ちがいともより高ぶったようです。防寒の準備も万端で開催の合図を待ちました。先生と体操で体をほぐした後、いよいよ親子参観がスタートリンクでスタートしました。

「オセロゲーム」は中央に置かれたオセロをチームの色に変えます。笛の合図と同時に両チームオセロへ一直線。お互い一步も引かない勝負でしたが、白組の勝利となりました。

「追いかけて玉入れ」は、ソリを引き、逃げまわるお父さんを子供たちが追いかけます。ソリにはたくさん玉が入りました。惜しくもわずかの差で白組の勝利となりました。

「そりりレー」氷の上でのソリはコントロールをすることが難しく、転倒してしまい引き離される場面もあり、前半は白組がリード。後半は、お父さんに乗せてソリを引く力持ちの男の子もいました。終盤、転倒による差を巻き返し赤組が逆転勝

利。白熱した勝負となりました。

「みかん狩り競争」はスタート地点からハイハイで雪山を目がけ、隠れているみかんを探します。笛の合図がなると子供たちは一目散に雪山へ。遅れてやってきて、探すのに苦戦している子には「ここにあるよ！」と手助けをしてくれる声があり、全員がみかんを手にすることができました。

最後の種目は「だるまさんが転んだ」です。子供たちは、景品のお菓子をもち、ゴールで待つ父兄目かけて進みます。かけ声が止まる

と同時に「ピタッ」と止まり、コツをつかんでいる子供たちでした。

最後の競技を終えた後、景品のお菓子が余っていたため、急遽お父さんたちを対象に「イス押し競争」をやることになりました。「がんばれー！」と子供たちからの声援がある中、競技が始まり、スピード感ある動きに子供たちは目を輝かせていました。全員がお菓子を獲得し、大奮闘の競技となりました。寒い中、参加していただいた父兄の皆さんお疲れさまでした。



Ⅳ 搾乳ロボット牛舎編

～より快適で自由な環境とおいしい餌で乳牛の自発的行動を促そう～

搾乳ロボット牛舎のあと二口食わせる技術の基本は乾乳牛・繋ぎ飼い・フリーストールと共通ですが、特に搾乳ロボット牛舎で乾物摂取量を上げるポイントは換気とエサです。

☆新鮮な空気を胸一杯吸える環境を！

搾乳ロボット牛舎では一般的に牛舎の幅や長さが広くなり、換気には不利となります。また、搾乳ロボット周辺の空気がよどみやすいという特徴があります。

- ・牛舎側面をできるだけ開放するなど、送風機を活用した強制換気が必要となります。
- ・搾乳ロボット周辺は、大型ファンなどを設置し、空気のよどみを減らす工夫が必要です（写真1）。
- ・冬期間は、凍結防止のため牛舎を閉め切る事例が見られます。搾乳ロボットの凍結防止対策を行い、可能な限り風下側のカーテンを開け、必要に応じて牛舎内の換気扇をゆっくり回して換気に努めます（凍結防止対策事例としてロボット室内へのストーブ設置やバルクーラーの廃熱活用があります（営農改善資料 P35 参照））。



写真1 搾乳ロボット前の空気を動かす

エサが常に牛の口にある

- ・搾乳が個別となり、飼槽で一斉に採食されることはありませんが、いつでもエサが食べられる状態が必要です。
- ・エサがあっても牛の口に届かなければ意味がありません。理想は24時間掃き寄せし続けることですが、現実的に難しく、自動エサ寄せ機を導入して1～2時間おきに掃き寄せする事例が増えています。



写真2 自動エサ寄せ機の活用

おいしいエサの確保

- ・搾乳ロボット内で配合飼料を食べるため、飼槽の混ぜエサは粗飼料の割合が多くなります。そのため、粗飼料品質の良否が採食量を左右します。
- ・粗飼料の栄養成分や発酵品質を高めるために刈り取りステージ、水分調整、添加剤の活用を見直すことが重要になります。



写真3 目指せ！腹いっぱい食べている牛の寝姿

☆おいしいエサが常に牛の口に届く！

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

北海道学園大学経済学部と北海道大学農学部において、学生向け授業の一環として「北海道農業の概要と、それを支えるJAグループの役割」について講義を行い、合わせて300人近くの学生の参加がありました。

「安定供給には、協同組合の形式が適している」「JAの存在意義を改めて知ることができた」など、JAの名前しか知らなかったという学生の皆さんにも、JAグループが果たす役割を理解して頂きました。

今後も、農業・JAの理解者を増やす「サポーター550万人づくり」に向けた情報発信を着実に進めて参ります。



JA北海道信連

昨年12月、地域貢献活動の一環として、JAバンクのキヤラクター「ちよリス」がサンタクロースに扮し、札幌市近郊の幼稚園など8カ所のクリスマスイベントに参加しました。イベントでは、野菜あてクイズやダンス等のレクレーションのほか、ちよリスから子供達へハンドタオルをプレゼントしました。子供達はちよリスのほつぺを撫でたりと、自由に触れ合い、イベントを楽しんでいました。



ホクレン

北海道産小麦の普及拡大を目的に、札幌駅前通地下歩行空間の広場で、「2018パンマルシェ」を開催しました。道内の人気や評判のパン屋16店が出展し、北海道産小麦を100%使用したパンのほか、小豆や黒豆などの道産豆を使用したオリジナル豆パンなどを販売。閉店以前に売り切れるほどの盛況ぶりでした。今後も、北海道産小麦の魅力やおいしさを広く知っていただけるようPRしてまいります。



JA共済連北海道

JA共済の「子ども共済」が、「マザーズセレクション大賞」を受賞しました。全国のママたちが「使ってみてよかった!」と思った企業や商品に投票し、表彰する「信頼と好感で選ばれる賞」です。ママたちからは「トップクラスの返戻率だから」「出産前から加入できて安心でした」などの声が寄せられました。

JA共済連北海道は、今後も安心と満足を提供に努めてまいります。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非一読ください。



2月1日(休)中春別保育園にて節分が開催されました。

当日は雪でしたが、それほど降ることもなく開催することができました。

子供たちは元気いっぱい、手作りの鬼のお面をかぶり、豆まきの準備をした園児がプレールームに集まってくると、「まめまぎ」の歌を歌い、豆まきが始まるまでの間、クラスから代表してお面作りの難しかったところなどを発表しました。

「自分の心の中にいる、いじわる鬼、泣き虫

ると「悪い子はいねー

鬼、おこりんぼ鬼、好き嫌いな鬼、みんなの心の中にいないかな？ 心の鬼さんをおんな退治してもらいたいと思います」といろんな表情のお面をかぶった先生たちが鬼役を演じた後、豆まきの練習が始まりました。始めは楽しそうにキヤーキヤーはしゃいでいた園児たちでしたが、いきなり太鼓の低い音が園内に響き渡り、辺りが真つ暗にな

か！」と大きな声の赤鬼が登場。園児たちの表情は一変しパニックになり、びっくりして固まる子や先生にしがみつき大泣きしている子など園内は大騒ぎ。たくさんの豆を投げつけますが、鬼はどんどんヒートアップし先生たちを引きずりさらおうとしました。園児たちは泣きながら必死に「先生連れていかないで」と先生にしがみつき、豆を鬼に向かっ

「絶対約束します」と 鬼とお約束！」

中春別保育園

節分



て投げ続けると鬼は帰っていききました。安心しきった園児たちがほっとしていると、帰ったはずの赤鬼が再び登場！ また、また園内はパニックに。豆を拾い集め泣きながら「いい子になります、約束します」と力いっぱい鬼に豆を投げ、ようやく鬼も観念し「みんないい子にするんだぞ、約束守らないとまたすぐ来るからな！」と。「約束守ります」と最後は鬼と約束をして、中春別保育園の節分は終わりました。



●酪農経営科・専攻科海外研修報告会&就農激励会が行われました

1月25日(木)、本校を会場に酪農経営科海外視察研修報告会および就農激励会が開催されました。11月にカナダで実施された海外視察研修では、酪農経営科3年小笠原陽さん、森田岬さんの2人が参加し、先進的な牧場の視察や、世界最大級の家畜共進会である「ロイヤルウインターフェア」の見学を通し、様々なことを学びました。報告会では町内の関係機関等からお招きした12人の来賓の方々を前にして、研修の概要や感想などを報告しました。



海外研修報告の様子

引き続き行われた就農激励会では、酪農経営科3年酪農経営者育成コースの3人、農業特別専攻科の2年目学生5人が参加し、今後の抱負を述べました。最後は来賓の皆様から激励の言葉をいただき、参加生徒、学生は決意を新たにしていました。



就農激励会にて会食の様子

●酪農経営科ピザを焼きました

1月29日(月)、酪農経営科3年生でピザを焼きました。食品加工の実習で製造したストリングチーズを使い、2年生が農業機械の授業で作成したピザ釜を用いて焼き上げました。高校生活も残り僅か。また一つ楽しい思い出を作りました。



●【専攻科】学友会年度末総会

1月22日(月)に学友会年度末総会を実施しました。今年度の事業についての反省や予算執行についての議案が中心でしたが、全て全会一致で承認されました。また、次年度の役員についても積極的な立候補の結果全会一致で承認され次のように決定しました。今後の活躍に期待致します。



学友会年度末総会の様子

会長 田中 祥太(養老牛)
副会長 佐々木拓晃(根室)
理事 鹿毛久匡男(別海)
監査 松井 慎(別海)

●【専攻科】第3回酪農技術現地研修会

1月26(金)専攻科ゼミ室において第3回酪農技術現地研修会を実施しました。午前は北海道地球温暖化防止活動推進委員であり、元気象庁職員の船山様より「酪農に役立つ気象のななし」と題して、気象データの見方や気象の基礎知識についてご講演していただきました。午後からは、税理士法人オーレンス税務事務所の横山様より「財務管理とキャッシュフローについて」と題して主に、計算書についてご講演していただきました。学生は、身近で興味深い内容であったので、真剣に講演を聞いていました。



第3回酪農技術現地研修会の様子

●【専攻科】第3回酪農技術現地研修会

2月9日、2月14日に加工実習を行いました。9日はストリングチーズ、モツアレアチーズの製造を本校乳加工室にて行い、学生が自家で搾乳している生乳を原料乳として使用し、高品質なチーズを作る事ができました。学生からは「とても手間がかかる事が分かった。6次産業を行っている農家の苦勞を知る事が出来た。」との声が聞かれました。14日は、べつかい乳業興社にて館内様、須郷様のご指導の下、パンの製造を行いました。生地段階から数種類の菓子パンを焼き上げ、本格的なものを作る事が出来ました。



加工実習の様子



生乳汚染事故を無くそう！

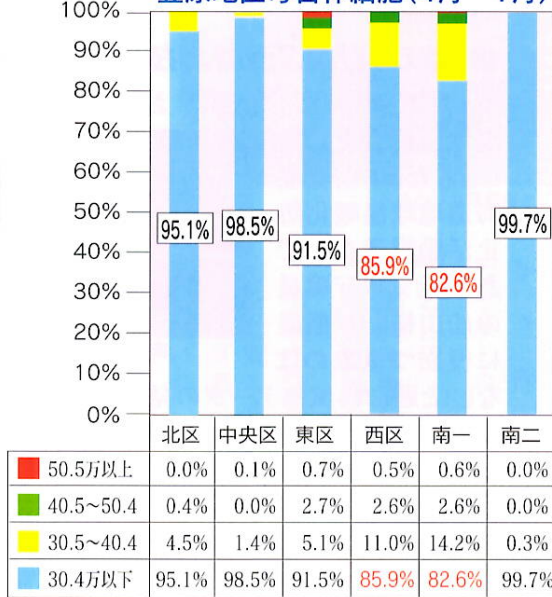
- **抗生物質混入事故**.....JA中春別発生件数 **1**件 管内合計では**8**件です。
- 生菌による汚染事故.....JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 異物混入、加水、**血乳**による汚染事故..... JA中春別発生件数 0件 管内合計では**1**件です。
- 異臭、**異常風味**による汚染事故..... JA中春別発生件数 0件 管内合計では**2**件です。

“飲料水”はどうですか？

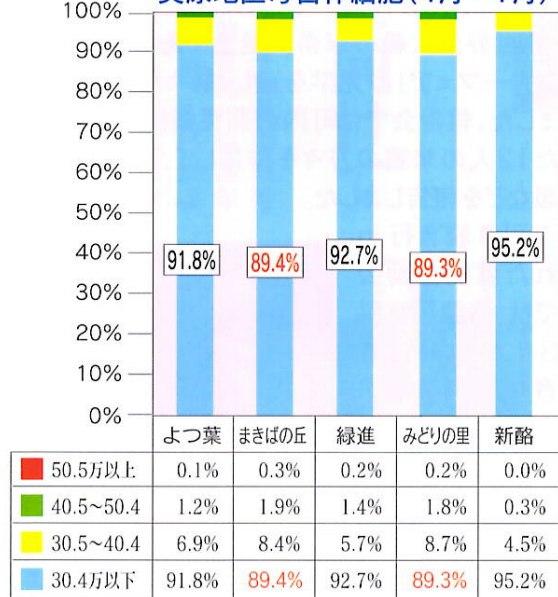
牛の飲水行動は汚れた水や氷水のような冷たい水は苦手といわれています。
水槽周辺やウォーターカップの汚れは大丈夫ですか

良質生乳生産推進委員からの標語

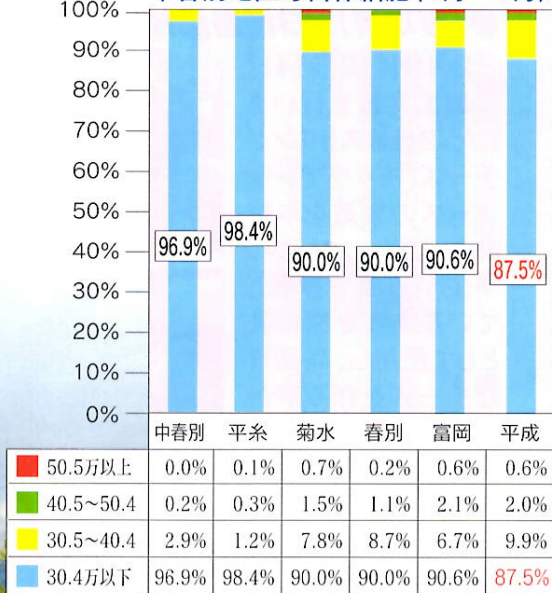
豊原地区毎日々体細胞(4月～1月)



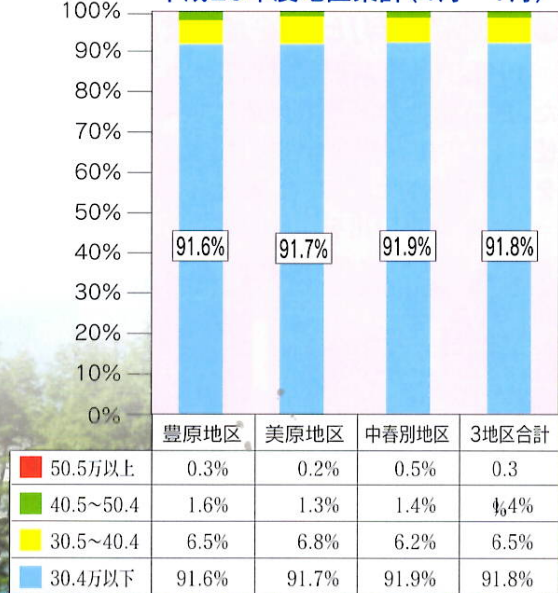
美原地区毎日々体細胞(4月～1月)



中春別地区毎日々体細胞(4月～1月)



平成29年度地区集計(4月～1月)



第12回 理事会の動き

平成30年2月23日(金)

議案

1. 平成30年度理事報酬額の諮問(案)について
2. 信用事業電子決済等代行業に係る農協法改正をふまえたJAバンクとしての対応について
3. 平成30営農年度財産造成に伴う資金の借入・貸付について
4. 畜産担い手総合整備事業(再編整備事業)について
5. 別海北部地区国営かんがい排水事業について

報告事項

1. 平成29年度12月末監査報告について
2. 組合員の加入について
3. 人事の発令について
4. 平成29年度1月末決算見直しについて
5. 固定資産の取得について
6. 平成29年度自己査定12月末仮査定結果について
7. 年度末貯金推進の実施について
8. 平成29年度決算棚卸実査について
9. 平成29年度1月末営農生産関連実績について
10. 平成30営農年度信用限度について
11. 平成29年度ホクレン冬期子牛飼養環境向上支援事業の実績について
12. 平成29年度草地難防除雑草駆除対策事業(農協・糞尿利活用草地整備事業)に係る自己負担金の精算について
13. 酪農経営体生産性向上緊急対策事業(楽酪事業)(1/2補助付きリース)及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業(楽酪GO)(施設補改修)の需要額調査の実施について
14. 特定疾病感染補償互助会の支払いについて

1月 乳質乳価一覧表

(単位:円/)

1月分乳代支払単価

			単 価	算 出 基 礎	支 払 額	前 年 期	差
乳 脂 肪 分			913.108		36.96	36.72	0.24
無 脂 乳 固 形 分			578.255		51.05	50.49	0.56
補給金(脱パ・チーズ・生クリーム)			8.2877		8.29	6.51	1.78
乳 質 単 価	生 菌 数	ランク1	2	318,799,199.7kg	3.74	3.74	0.00
		ランク2	0	6,603,592.6kg			
		ランク3	-3	199,351.1kg			
	体細胞数	ランク1	2	283,159,080.0kg			
		ランク2	1	22,382,878.3kg			
		ランク3	-2	3,819,508kg			
合 計					100.04	97.46	2.58

項 目	単価(円)/(kg) %
乳 脂 肪 分 ①	36円96銭
無 脂 乳 固 形 分 ②	51円5銭
補給金③チーズ奨励金④	8円29銭
脂 肪 率	全道 4.05%
	農協 4.08%
無 脂 固 形 分 率	全道 8.83%
	農協 8.79%
成分乳価	全道 96円30銭
①+②+③+④=⑤	農協 96円33銭
乳 質 乳 価	全道 3円74銭
⑥	農協 3円76銭
乳代合計	全道 100円04銭
	農協 100円09銭
⑤+⑥	差異 0円05銭

組合員の広場



作品名「バラ」望月雪枝さん



作品名「ふよう」望月雪枝さん

今月号の組合員の広場は「和紙絵香彩会」の作品を掲載いたしました。
組合員の広場では習字や俳句、短歌、絵画、写真など多数の作品を募集しております。営農振興課・丸山までお気軽にご連絡ください。

訂正とお詫び

2月号で「組合員の広場」青野一枝さんの作品名「流水」と「オニクルの入江」のタイトルが逆になっていました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。